

第25期 拡大役員会

顔を合わせて取り組むべき方向性を協議・確認

2021.11.22(月)-23(火・祝)

会場:一般財団法人JELA 1階多目的ホール

参加者

連盟担当-小勝 奈保子牧師

各教区会長-東教区/神庭 靖子、東海教区/金高 美江子

西教区/三輪 真理、九州教区/榎津 直江

(書面参加)函館教会会長/須藤 幸子、札幌教会会長/佐藤 順子

協力委員-ACWC/岸田 多希子、NCC/安田 やまと

(書面参加)ACWC/新城 智恵美、いつくしみ/石飛 久子

LWF/WICAS/望月 通子

ー主イエスのまなざしと出会うー
神さまに、隣人に、そして社会に仕える

連盟役員-会長/八木 久美、副会長・書記/徳弘 由美子

会計/立野 照美、広報/廣瀬 美由紀

事務局員-富里 雪子、中原 あゆみ

ご協力感謝:一般財団法人JELA

古屋 四郎理事長、渡辺 薫事務局長、森 一樹職員

副会長・書記 徳弘 由美子 (高蔵寺教会)

昨年後半期となりましたが、一般財団法人JELA多目的ホールをお借りして拡大役員会を開催することができました。コロナ禍で集まることもままならない日が続きましたので、感染対策もしっかりと行った中で一同顔を合わせて話し合う機会を今回特別に持つことができました。

小勝奈保子牧師をはじめ各教区会長、協力委員、そして事務局と顔と顔を合わせることができ、25期の活動の初年度として、良い形で拡大役員会を開催できたことはとても有意義で、感謝なことでした。

小勝奈保子牧師による開会礼拝から、顔合わせとそれぞれの挨拶の後、各教区や協力委員より活動報告と課題を共有しました。

■コロナ禍により集まることのできない中でZoomなどを活用し工夫しながらの活動、そして課題は、高齢化や若

い世代の入会がなく、会員減少や休会になっていく教会が増えている現状です。

■協議事項は、総会時の提言書、会長経験者からの提言、協力委員と教区・連盟の連携について、サバ神学院支援に関して、会員数減少についてなど、時間が足りないくらい積極的な話し合いができ、またそれぞれの意見を共有でき実り多い2日間だったと思います。

また、JELAの古屋四郎理事長よりご挨拶とJELAの成り立ちや活動などのお話を伺う時間をもち、同じルーテルのグループとしてたくさんの刺激を受けました。

この拡大役員会で協議されたことに私たち役員一同、精一杯取り組んでいきたいと思ひます。具体的な報告は、報告書と「ひびき-52号」の掲載記事として各教会へ配布されていますのでご覧ください。

ー各教区/教会の共通課題ー

- ・役員会⇒主にリモート(Zoom,Line等)開催、対面で数回。
- ・女性会活動⇒個教会の諸状況による。＊活動休止の会も。
- ・集いや会報発行を工夫して実施。
- ・会員の高齢化・新規加入者の減少。
- ・ジェンダーフリーの視点から女性会の括りに抵抗感も。

- ・コロナ禍の長期化⇒女性会・教会の連帯意識の希薄化。健康不安、情報共有の不足感、集うことが叶わない不安感も。
- ・教区⇒個教会の影響が、良い面も憂うべき面もダイレクトである。
- ・各教区間の情報共有化⇒大きなルーテル教会の理解・自覚。

JELAのご紹介 ー拡大役員会2日目、昼食休憩前のひととき

古屋四郎理事長からJELAについてお話していただきましたー

ミッション・ステートメント:行動理念

私たちはキリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人々に仕えます。

1.現在のJELA

1-1法人 a)法人 一般財団法人JELA(JELA Foundation)

評議員 9名・理事 9名・監事 2名

b)事務局 東京都渋谷区恵比寿1-2-26 常勤職員7名

1-2財務 a)総資産…約半分が土地・建物、半分が金融資産。

b)活動財源と収入

①収益事業、②資産運用、③寄付金、④活動参加費

c)2020年は収入のほぼ半分を公益事業に使った。

さらに公益事業への支出を増やしたい。

2.JELAの事業

a)世界の子ども支援事業

日本と海外で、貧困の中の子どもたちの生活環境を改善。

子どもが健康に育つ環境作りの諸事業をLWDと開発していく。

①カンボジア(現地のLWD:元LWFと提携)

プレスクール建設、簡易水道施設建設(外務省と提携)、ソーラーラ 2

ンタン配布(パナソニックと提携)、大学生/一般向けワークキャンプ

②インド(現地のCRHPと提携)大学生/一般向けワークキャンプ

(現地のLWSITと提携) 女児養護施設への支援。

b)難民支援事業

難民として来日した人々に住居(シェルター)を提供し、日本への定着支援。

①難民申請中の方々のシェルター(複数の難民支援団体と提携)

※板橋5室、江戸川10室

②RVEP難民専門学校教育プログラム(UNHCRと提携)

JELAフィコロセニア奨学金

③アドボカシー、セミナー活動(なんみんフォーラムに加盟)

c)奉仕者育成事業

ワークキャンプ、学校との連携、奨学金などを通じて、隣人愛に生き

ようとする人々を育成。

①高校生向けワークキャンプ②JELAディアコニア奨学金

③学校教育助成金④リラ・プレカリア



ー協力委員の共通課題ー

- ・役員会⇒主にリモート(Zoom等)開催、対面で数回。
- ・女性会連盟ー協力委員ー各教区ー各個教会女性会の連携。
- ⇒情報の共有化・共通理解・協働の意識が希薄化している。
- ⇒連盟から教区へ呼びかけの協力を希望。
- ・ACWC、NCC、いつくしみ、LWF-WICASのアピールや説明が更に必要。
- ・超教派への意識の拡がりや理解を希望するがコロナ禍の影響が大きい現状。

ー連盟の課題ー

- ・ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて現状の課題を共有しながら、各教区女性会・個教会女性会・協力委員、教会と情報のみならず意識の共有化を目指したい。
- ・ご召天者の会報掲載/サバ神学院/諸活動の集会+オンラインのハイブリッド化/(感謝)支援献金/会費/会報サイズ・誌面リニューアル化への説明理解。
- ・連盟の歴史の流れの振り返り⇒各教区・個教会含め、共通理解と協働へ繋がる工夫。
- ・ホームページの有効活用化。
- ・会員数減少、休会教会女性会の増加、SDGsの視点から諸活



* 牧師、各教区会長、協力委員、事務局員、JELA職員、連盟役員 一堂に会する恵み恵み

- 動への理解を深める⇒「女性会」の括りへの内部課題も認識しつつ、より良い方向への模索が必要。
- ・女性会のみならず信徒間の協働の拡がりも模索。
- ・教区の課題⇄教区内個教会/女性会の課題⇄全体教会の課題でもある現状。
- 今後の可能性を深め、希望を拡げる活動へ取り組む所存です。
- 詳細は拡大役員会報告、女性会連盟ニュース52号をお読みください。全国から集結した役員のみならずの背後に、主の守り・祝福と多くの祈りのお支え、ご協力がありました。

心よりの感謝と共に 会長 八木久美

d)災害支援事業

災害被災者や支援活動への寄付、被災した若者への奨学金。

e)ルーテル・グループへの貢献(共益活動)

ティーンズキャンプへの支援。新任J3への赴任前研修。

f)広報活動

チャリティコンサート、JELA-NEWS、ホームページ・SNS

3.JELAの歴史

JELAのルーテル教会時代 1909~1941

1909:米国のルーテル教会宣教師が日本で活動するため「在日本アメリカ合衆国福音ルーテル教会ユニテッド・シノッド宣教師財団」を設立。教会・学校・施設を統合。1939:宗教団体制制定。1941:教会は日本基督教団に統合。学校施設は財団法人へ分離。社団法人名称は「日本福音ルーテル社団」へ変更。宣教師は帰国。

宣教師会の管理法人時代 1941~1980

戦後、宣教師が再来日、日本への宣教を再開。米国ルーテル教会から 3

莫大な献金が社団を通じ日本の教会へ提供。以後、宣教師会の管理法人として存続。米国ルーテル教会の海外宣教は日本以外へ注力。社団は今後の方向を模索。

公益事業団体時代 1990~

1985:一人の難民を市ヶ谷ルーテルセンターへ受入。社団が外務省の委託を受け難民を保護。新たな役割の始まり。1990年代:公益事業団体として歩みを開始。多彩な活動を発掘。2013:公益法人制度改革へ対応、一般社団法人に。2021:一般財団法人へ転換。JELAサポーター制度開始。

4.これからのJELA

2022:公益財団法人へ転換予定。法人税の2千万規模の軽減分を振分け公益事業を拡大。税制特典の活用で寄付募集を強化。ルーテルの枠を越えJELAの理念の賛同者を増やしていく。ルーテルの精神基盤の保持のため、評議員・理事の1/3はルーテル教会教職。